

HYPERPOST／圃場管理システムの概要

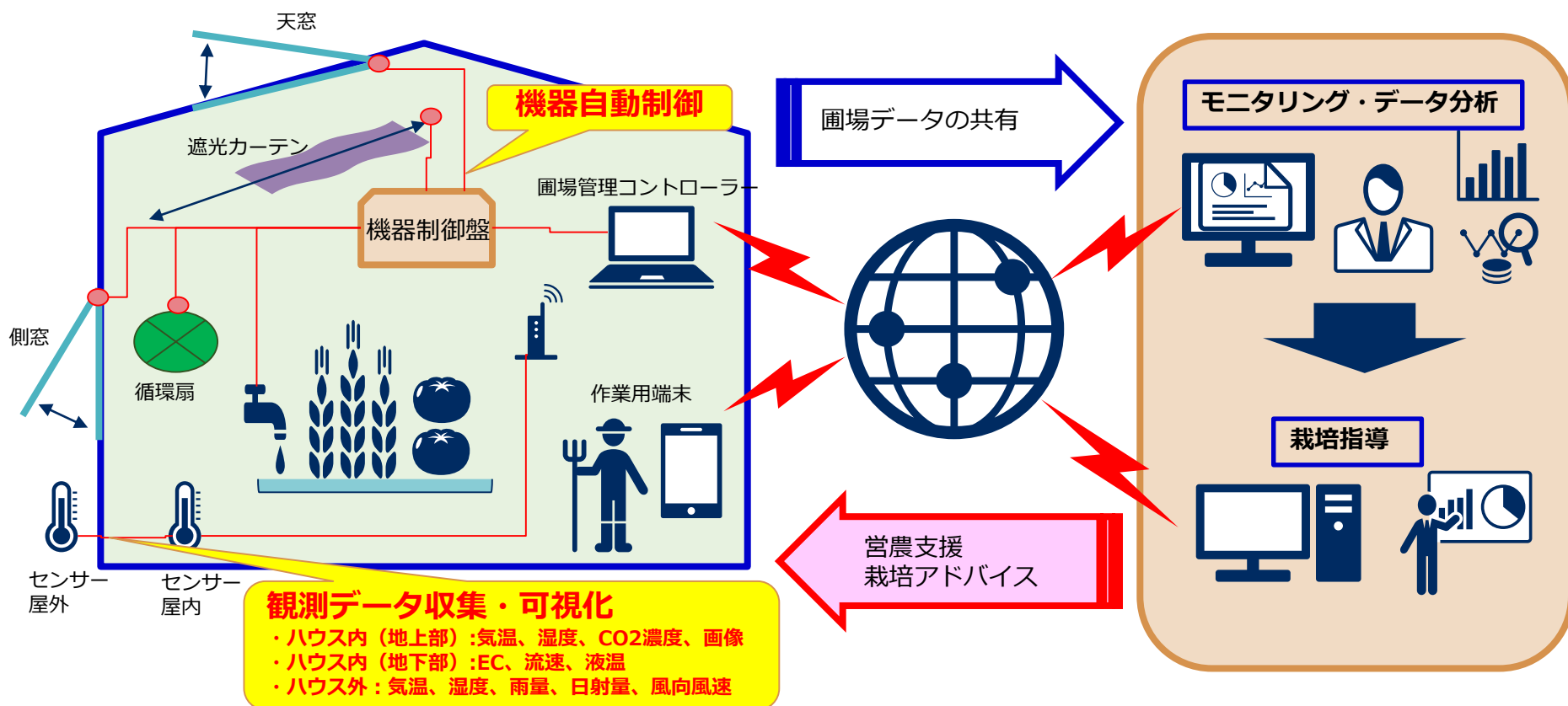
- I. 「HYPERPOST／圃場管理システム」は、タブレット端末やクラウド技術を活用し、農作物の栽培環境（EC・pH値、温度・湿度・日射量等）や生育状況（生育写真、収穫量等）の可視化を実現。遠隔地から圃場管理者が圃場データを確認でき、営農専門家の指導・支援が行える農場ICTシステム。

- II. 圃場に合わせたシステム構築ができ、作物の理想的な生育環境を圃場内各センサーの観測データから機器を自動制御することにより実現し、水資源、電力、燃料等を効率的に利用可能。
また、急激な気象変化にも自動制御にて対応できるため、圃場並びに作物への被害を低減する機能も実装。

- III. 日本の農業栽培技術を活用することにより、海外現地に対応した農作物の生産・収穫ができ、美味しく安全な食を提供することが可能。
また、海外での農業生産活動を支援することで、農村地域における貧困削減に貢献することも可能。

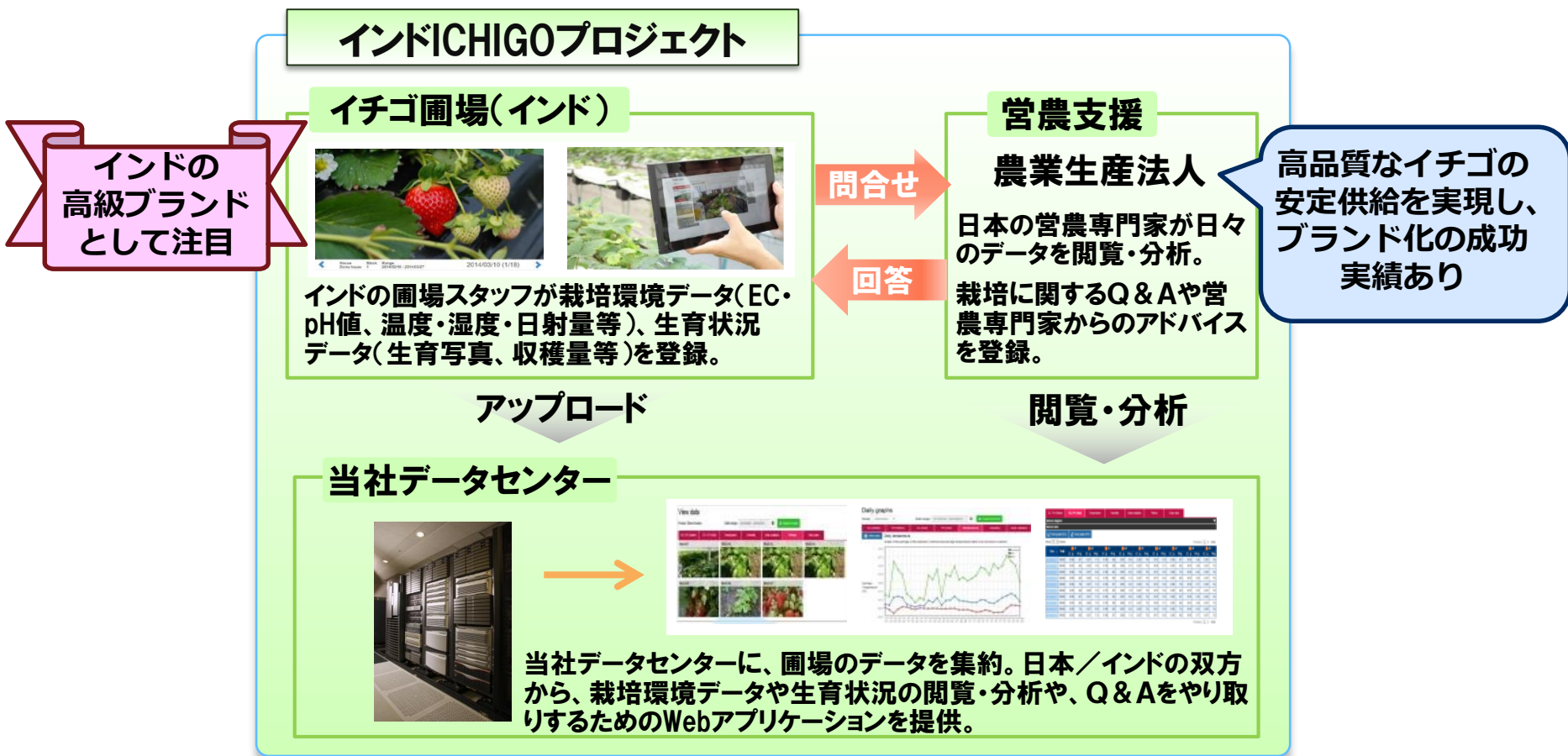
HYPERPOST／圃場管理システムの概要

クラウドサーバーを利用することにより、国内外の複数の圃場データを集約し栽培環境データ、作業記録、育成状況のデータをグラフや表で可視化します。データから生育環境をきめ細かく分析し、病虫害の予防対策や生産物の品質向上、収穫量の安定に寄与するためのアドバイスを行うなどの、国境を越えた営農指導を可能にします。



HYPERPOST／圃場管理システムの導入事例

本システムは、グローバルな農業プロジェクトの中でも活用されています。日本の営農専門家である農業生産法人様がインドのイチゴ圃場の営農支援を行う「インドICHIGOプロジェクト」にて本システムが採用され、国境を越えた農業支援に欠かせないツールになっています。



国連気候変動に関する政府間パネル（IPCC：Intergovernmental Panel on Climate Change）が示す「気候変動がもたらす8つのリスク」の内、本ソリューションにより軽減できるリスク。

（冒頭の番号は、「気候変動がもたらす8つのリスク」次ページの番号に対応）

⑤気温上昇、干ばつ等による食料安全保障が脅かされるリスク

圃場の栽培環境と育成状況情報を圃場管理者と営農専門家で共有し、気温上昇等による被害を最小限にとどめる対応を実施することにより、**気温上昇、干ばつ等による食料安全保障が脅かされるリスクを低減、回避**することができる。

⑥水資源不足と農業生産減少による農村部の生計及び所得損失のリスク

海外での農業生産活動を支援することにより、新しい品目の生産が可能となったり、収穫量増加・品質向上や現地の資材調達・流通の活性化に繋げていくことができる。

それらに伴い、農村地域における**収入の安定化／多様化や所得損失のリスクを低減、回避**することによって貧困削減に貢献することができる。

気候変動がもたらす8つのリスク

出典：IPCC第5次評価報告書(2014)



① 海面上昇、沿岸での高潮被害などによるリスク



② 大都市部への洪水による被害のリスク



③ 極端な気象現象によるインフラ等の機能停止のリスク



④ 熱波による、特に都市部の脆弱な層における死亡や疾病のリスク



⑤ 気温上昇、干ばつ等による食料安全保障が脅かされるリスク



⑥ 水資源不足と農業生産減少による農村部の生計及び所得損失のリスク



⑦ 沿岸海域における生計に重要な海洋生態系の損失リスク



⑧ 陸域及び内水生態系がもたらすサービスの損失リスク